

カキ角斑落葉病の感染時期と防除対策

果樹試験場かき・もも研究所

[研究のねらい]

カキ角斑落葉病(図1)の感染時期が発病に及ぼす影響と薬剤防除効果に関する調査を実施し、薬剤散布が重要な時期について検討しました。

[研究の成果]

1. 発病に影響した感染時期は、5月上旬から7月上旬まで多く、7月下旬まで続き、8月以降の感染による発病は少なくなりました(図2)。
2. 9月下旬、分生子が多数形成された本病害常発ほ場に設置した「富有」(ポット栽培)には、発病葉はみられず二次伝染の影響は小さいと思われました(データ省略)。
3. 慣行防除と8月以降防除しなかった削減防除で発病を比較したところ大差はみられず、8月以降の薬剤防除の重要性は低く、春季から7月までの防除が重要であることがわかりました。(図3)。

[成果の活用面・留意点]

秋季も感染発病する炭疽病、うどんこ病等は、8月以降も防除が必要です。

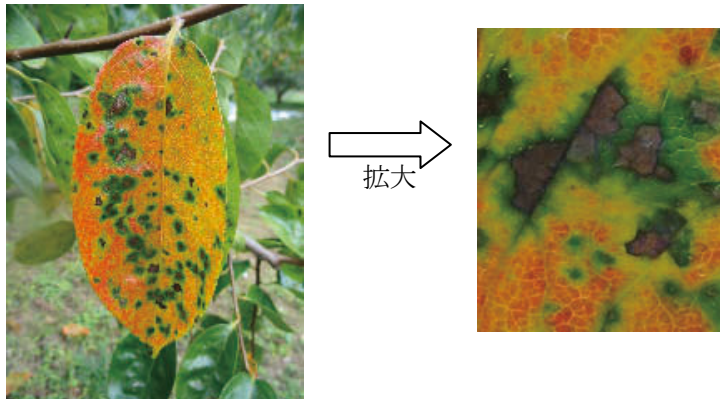


図1 カキ角斑落葉病

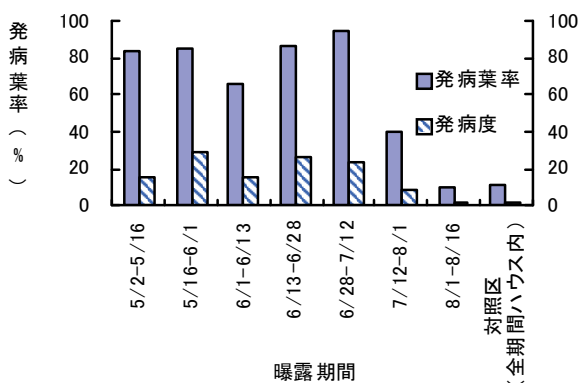


図2 8月中旬までの感染時期が発病に及ぼす影響

注) 試験方法: 2007年度、かき・もも研究所内の角斑落葉病常発ほ場にポット栽培「富有」4~5年生を各14日間設置し、9月下旬発病調査

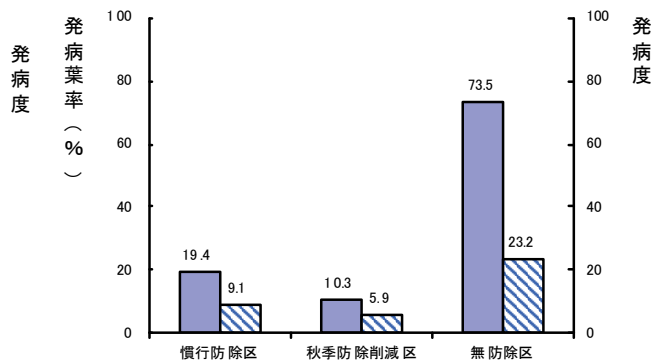


図3 薬剤散布の違いが発病に及ぼす影響

注) 試験方法: 2011年度 かき・もも研究所内のポット栽培「富有」8~9年生に前年罹病

落葉した伝染源を近くに設置し、生育期間に薬剤散布後10月上旬発病調査

薬剤散布: 5月20日ジマンダイセン水和剤600倍、6月6日キノンドー水和剤800倍

6月23日キノンドー水和剤800倍、8月9日オンリーワンフロアブル2000倍

(問い合わせ先 0736-73-2274)